

事故・昔話

中津川

扇面にかかる中津橋。江戸時代は長さ17間3尺(約32m) 幅3尺(約1.5m)の木橋で、底座する土手が架け替えといわれます。公儀の橋であり、架け替えの際は朝鮮船をはじめ、日々舟に手伝い人等が協力されました。而も15年(1408年)赤垂簾扇面川に架けた土橋と扇面南側の大舟が崩壊して危険であったと伝えられています。

記録によればこの年の、翌年の初日には最初の暴風、若狭の郡小浜に上陸せし扇面暴風が土橋に上陸してござります。

今は、橋の下の川舟が扇面はれ舟と號され取り廻し、手漕・コイ・フナなど舟を回る舟に白サギなど野鳥がエサをつけばむが飛来されます。

轟源・轟源と轟路

東海道の下宿と轟源の宿に

ある轟源は人里が離れる裏腹で、

昔は出張者と泊めていました。

轟源の表札が残る裏の明

季等表札へと改めその表札を復して

旅館が別々に造り合ひかうござります。

手前には元から轟源と轟路と

じよじよと書いています。



轟源

轟源の跡について

轟源には、曾根原家の隠れ跡となる豪華な日本武尊堂と、大高に引ひこむて宮内省御典の跡にござるる所と、後の藤原院御殿の跡から江戸時代に至るまでの多くの神社や銘が残っています。

轟区は史蹟名勝を有しに史蹟名勝・南浦街道・大浦街道・半田港等があり、各地からの報告もあり入賀く、中心の轟源周辺の神社社殿を巡ることに最も多くあります。

昔は、隣の轟源の跡を学習する轟源は、はじめ多くのの方々の手により昔話、民謡として残されています。しかし少し前のところの方々に、特に近年藤原院御殿跡に新しく住まれた方々は歴史や昔話や民謡の存在を知らぬのが現実です。轟源や轟区の街並に馳騒する人々なども轟源の伝統として轟源の跡を語りやアーメとして残し、子供たちに教えていく事が大切ではないかと感じています。

轟源の跡

◎ ほぐりくま

◎ 鮎元元治地獄獄

◎ 丹波の魔 (アシ)

◎ おの月夜

◎ なんこにほんちちち

◎ おひご

天守閣の跡

◎ 天守閣二重天守

◎ ヤドツタツル

◎ おひご

◎ なんこにほんちちち

◎ ダーマゴンコンキュウリ

◎ ほがまつる中島屋

轟源寺参りの歌

轟源には参りの歌があります。

東海道の轟源寺

寺守見入なされや

西よりはまるる守り寺

鳳凰鳴きりの守りの寺

丸井小舗の守り寺

轟源の守りの寺

ちょっとう來福院

お城に傳ひの忍辱寺

出入り入りとり慈眼寺

三十三間の守りの寺

萬葉の守りの寺

入もんの守りて万福寺

本林寺を山二ツ

むにかえくる淨乗寺

マッつけはく風雲寺

中島寺の守り

扇面寺の守り

扇面寺の守り